

令和2年度 指定管理施設検証結果報告書

PLAN	施設名	甲州市農産物加工体験施設			検証日	令和3年7月13日	
	所管課担当名	観光商工課 観光企画・宣伝担当		課長名	志村 裕喜	作成者名 金子 猛	
	指定管理者	名称	株式会社 エープレイス				
		代表者	代表取締役 手塚 公彦				
		所在地	山梨県甲州市大和町日影1112番地				
		指定期間	平成28年(2016年)4月 ~ 令和3年(2021年)3月				
	管理施設の概要	施設所在地	山梨県甲州市大和町初鹿野2248番地				
		設置目的	地域産業の振興と市民の福祉の向上を図るために、広く一般の休憩のための施設として、道の駅を設置する。				
		利用者	市民、市民以外	施設管理体制	3名	開館日時間等	9:00 ~ 18:00 (毎週水曜日・年末年始・臨時休館を除く) ※9:00~17:00 (令和3年1月16日~2月28日)
	事業概要	サービス提供の内容					
指定管理業務		(1)道の駅甲斐大和外1施設のそれぞれの設置及び管理条例に定める設置目的達成の実施に関する業務 (2)道の駅甲斐大和外1施設の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 (3)道の駅甲斐大和外1施設の利用の受付及び案内に関する業務 (4)道の駅甲斐大和外1施設の利用の許可に関する業務 (5)道の駅甲斐大和外1施設の利用の促進に関する業務 (6)その他の日常業務					
自主事業	(1)そばづくり振興(神金地区休耕地、耕作放棄地対策としてそばの栽培を行ない新たなコンテンツに育てる) (2)うらじろ栽培推奨と利用促進(うらじろを使った新商品の開発を行ない、農家による安定した栽培を促した) (3)ほうとうづくり体験で郷土食の食文化をPRする。						

管理運営コスト推移(千円)		平成28年度 (指定期間1年目)	平成29年度 (指定期間2年目)	平成30年度 (指定期間3年目)	令和元年度 (指定期間4年目)	令和2年度 (指定期間5年目)
予算	指定管理料	0	0	0	0	0
	利用料金収入	200	200	200	200	200
	その他収入	8,800	8,800	9,030	1,200	1,200
	管理運営経費	8,957	8,957	9,230	1,250	950
決算	指定管理料	0	0	0	0	0
	利用料金収入	124	166	40	73	0
	その他収入	8,236	7,977	7,437	1,200	1,227
	管理運営経費	10,377	7,795	8,360	1,088	903
収支	-2,017	348	-882	185	324	
施設の稼働状況		平成28年度 (指定期間1年目)	平成29年度 (指定期間2年目)	平成30年度 (指定期間3年目)	令和元年度 (指定期間4年目)	令和2年度 (指定期間5年目)
指標	施設利用者数(人)	62	83	20	49	0
活動結果		道の駅と共同でそばづくり振興、うらじろ栽培の利用促進を行った。農産物加工体験施設での体験事業は三密による感染リスクが大きいため、1年間を通じて受け入れを自粛した。				

CHECK	評価観点	評価 (5 4 3 2 1) 高 → 低	評価の説明
	(1)事業の運営	3	道の駅と共同でそばづくり振興及びうらじろ栽培の利用促進をはかるも、新型コロナウイルス感染症への影響で営業自粛や、行楽客が減少した期間はうらじろまんじゅうの製造を控えたため、原料仕入量の見直しを行わざるを得なかった。
(2)施設の維持管理	3	・日常点検、法令点検、定期的なミーティングを行っている。 ・施設の修繕は観光商工課と協議のうえ着実に適切に維持管理されている。	
(3)収入支出	3	・体験事業は自粛となり、厳しい営業状況である。	
(4)総合評価	総合評価の説明(施設所管課による一次評価)		
	優良 良好 妥当 要改善 不適	妥当	・ほうとうづくり体験が自粛となり厳しい状況であったが、新型コロナウイルス感染が治まり再開できるイメージを持ち続けて頂きたい。

ACTION		評価結果に対する今後の対応
当面の課題	・新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、施設利用者数の増加につながることを考える。	
課題解決への対応	・少人数での体験内容の検討や利用アンケート・ネットでの口コミ等を参考に、引き続き利用者の目線に沿った対応に努める。	

二次評価(公共施設活用等検討委員会での総括意見)

・仕様書及び協定書のとおり適切に管理運営されている。  
 ・道の駅と農産物加工体験施設を一体的に管理するなかで管理経費の節減に努めている。  
 ・コロナの影響により、ほうとうづくり体験が自粛なってしまったが、そばづくり振興やうらじろの利用促進のためのうらじろまんじゅう等の製造など、地域の特産物を活用した取り組みを積極的に行っている。  
 ・令和3年度から道の駅の付属施設となったので、道の駅として一体的な有効利用に努めていただきたい。